

フィリピンの聴覚障がい児を学校に、そして音の世界に!

フィリピン耳の里親会理事長 中泉 貢一

フィリピン耳の里親会は、1992年に作られた民間のボランティア団体です。貧困で聾学校に通うことが難しいフィリピンの聴覚障がい児の支援を行っています。

1991年にフィリピンの聴覚障がい児教育の関係者が来日、北海道の聾学校を視察しました。その時に教育機器寄贈の依頼があり、それを送る、そして、使い方を現地で説明するために会が作られました。92年の秋に1回目の現地セミナーを開催しましたが、短い時間では限界を感じ、翌年、現地の先生を招いて2カ月の招聘専門研修を行いました。

研修によって補聴器などの使い方が習得された後に機器の寄贈を行っています。こうして、現在まで、現地セミナーを12回、延べ22カ所で開催しました。招聘研修も8回、21人の先生を招いています。寄贈した補聴器はすでに500台を越えています。これらの事業は、会費や寄附金、フリマ・バザーなどの事業収入で行っていますが、旧郵政省の国際ボラン



幼稚園の子どもたち(イロイロ市)

ティア貯金やJICAの補助金も受けており、聴力検査のための高価な機器や検査室の設置なども行っています。

日本は、聴覚を活用した教育と乳幼児からの早期教育においてフィリピンよりも進んでいて、現地セミナーや招聘専門研修でもこの点に力を入れて取り組んでいます。日本で研修した先生方は、帰国後もリーダーとなって活躍しています。また、今年現地セミナーで早期教育の大切さを理解して、乳幼児用の教室を新設した地域もあり、私たちの活動が実を結んだ嬉しい出来事になりました。

「里親会」の名称のとおり、現在51名の里子があり、5地域に一人年間36,000円の奨学金を送っています。物価差が8倍ほどあるので、年間の授業料や交通費、制服代、昼食代をまかなうことができます。里親制度が始まった頃、幼児で何もわからず、きょんとしていた子ども達がとても立派に成長し、高校で熱心に勉強をしている姿を見ると胸が熱くなります。私たちに對しても「みなさんや里親さんのおかげで、勉強を続けることができまして幸です。もうすぐ高校を卒業することができます」と感謝の言葉を聞くと、この活動を支えてくれている里親さんや会員の方に感謝の気持ちでいっぱいになります。

「里親会」の名称のとおり、現在51名の里子があり、5地域に一人年間36,000円の奨学金を送っています。物価差が8倍ほどあるので、年間の授業料や交通費、制服代、昼食代をまかなうことができます。里親制度が始まった頃、幼児で何もわからず、きょんとしていた子ども達がとても立派に成長し、高校で熱心に勉強をしている姿を見ると胸が熱くなります。私たちに對しても「みなさんや里親さんのおかげで、勉強を続けることができまして幸です。もうすぐ高校を卒業することができます」と感謝の言葉を聞くと、この活動を支えてくれている里親さんや会員の方に感謝の気持ちでいっぱいになります。



第1回セミナー(92年 セブ市)

フィリピン耳の里親会事務局

〒070-0825 旭川市北門町19丁目2155-3 TEL&FAX 0166-55-9654 <http://homepage2.nifty.com/jefp/index.html>

札幌国際センター・帯広国際センター

北方圏センターが行う、JICAの国際センター(札幌市・帯広市)に滞在する研修員等が参加する様々な行事等をこのコラムに掲載します。

着物の着付け(帯広)

着物の着付けは、日本文化の理解を図ることを目的として研修員を対象に実施し、22年度は20回の実施を予定している(21年度は23回実施)。毎回2、3名のボランティアの着付けの先生の協力を得ている。

10月18日(月)には2カ月間の研修で帯広センターに滞在しているアルバニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、クロアチア、セルビア、マケドニア(旧ユーゴスラビア)の男女研修員8名が女性は振り袖、男性は羽織袴を着て写真撮影をした。



息子の誕生日にメッセージを



3人揃い



全員でパチリ

「ワールドジャンクション」(札幌)

11月3日(水・祝)、札幌国際センターでは「ワールドジャンクション2010」が開催された。毎年、白石区子ども会連絡協議会および(社)札幌市子ども会育成連合会と実施しているイベントで、子ども会の児童や育成者が集まってJICA研修員(36名)とゲームや各国の遊び、昼食会などを通じて交流した。

午後からは隣接する札幌市のリフレサッポロのライラックホールに会場を移して、全員で輪になって北海盆踊りや人気の「マイアヒ」ダンスに興じ、アルメニア、スワジランド、スリランカ、ジャマイカからの研修員が伝統の歌や踊りを披露した。

お願い

「であい」は北海道発の国際協力情報紙として、毎号、北海道内の国際協力に関する各地の取り組みや話題を掲載します。市町村、団体、小中学校、大学などで開催される行事、イベントなどの情報をお寄せ下さい。

(出版部 pbl@nrc.or.jp または国際協力部 intc@nrc.or.jpまで)